



# いま、危険度が増しているのは大麻です!

## 若者の検挙者が急増中!

ここ数年、大麻による検挙者が急増しています。2019年には大麻の検挙者数は過去最多の4,570人となり、そのうち半数以上は30歳未満の若者でした。なかでも急増しているのが少年で、2019年には6年前の10倍以上となる615人が検挙されています。

その原因の一つとしてインターネット等に氾濫している大麻についての間違った知識や情報が影響していることが考えられており、注意が必要な状況です。



## 大麻は身体への悪影響はない? → NO 有害です!

インターネット等で、「大麻は身体への悪影響はない」「依存性がない」などの誤った情報が氾濫しています。しかし、実際には大麻を乱用すると、大麻の花や葉に含まれる成分「THC(テトラヒドロカンナビノール)」が脳に作用して下図のような様々な不具合を引き起こします。特に成長期にある若者の脳に対して影響が強いことも判明しています。間違った情報に流されず、正しい知識で判断しましょう!

大麻の乱用による影響		大麻の有害性		大麻を長く使い続ける影響	
<b>知覚の変化</b> 時間や空間の感覚がゆがむ	<b>学習能力の低下</b> 短期記憶が妨げられる	<b>運動失調</b> 瞬時の反応が遅れる	<b>精神障害</b> 統合失調症やうつ病を発症しやすくなる	<b>IQ(知能指数)の低下</b> 短期・長期記憶や情報処理速度が下がる	<b>薬物依存</b> 大麻への欲求が抑えられなくなる

## 海外で合法だから大麻は安全? → NO 間違いです!

大麻について「海外では合法的な国があるから安全だ」という主張を耳にすることがあるかもしれません。しかし、薬物を取り巻く環境は日本と海外では大きく異なります。法律などの規則はそれぞれの国の事情や背景をもとに作られているため、「海外で合法だから大麻は安全」ということはありません。

大麻の所持や使用が犯罪にならない国や地域であっても、**大麻の有害性の影響を大きく受ける未成年の所持や使用は禁じられています。**間違った主張に流されないようにしましょう!



## SNSでの薬物の誘いに注意!

近年、薬物が密売される手段として危険が拡大しているのがSNSです。SNS上では大麻を意味する隠語などが使われ、大麻などの購入を促す内容が多く投稿されています。実際に未成年の学生がSNSを通して売人から大麻を購入した事件が複数報告されており、大きな問題となっています。

SNSを通して薬物の売人と関わることは、多くの危険を伴います。もし、そのような投稿を見つけても誘いに乗らないようにしましょう。



## 大麻の加工品や大麻を含んだ食品に気をつけて!

大麻から成分を抽出した「大麻リキッド」や「大麻ワックス」など新しいタイプの加工品の消費も増加しています。また、海外でお土産として売られているチョコレートやクッキー、キャンディなどの中に**大麻が含まれている**ことがあります。誤って口にして体調不良で緊急搬送された事例も発生しているので十分に注意しましょう。



## 大麻や覚醒剤などの薬物は、誰かに渡したり、持っているだけでも法律によって厳しく罰せられます。

大麻所持・譲渡	覚醒剤所持・譲渡	コカイン・MDMAなど所持・譲渡	ヘロイン所持・譲渡	指定薬物所持・譲渡	あへん所持・譲渡
大麻取締法 5年以下の懲役	覚醒剤取締法 10年以下の懲役	麻薬及び向精神薬取締法 7年以下の懲役	麻薬及び向精神薬取締法 10年以下の懲役	医薬品医療機器等法 3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金	あへん法 7年以下の懲役
<b>大麻</b>	<b>覚醒剤</b>	<b>コカイン</b>	<b>MDMA</b>		

## 薬物の誘いに、きっぱりNo!と断る勇気を!

薬物を乱用するきっかけは「友人からの誘い」が多いということが報告されています。言葉で断れる場合は**勇気をもってきっぱり断ることが大切です。**でも、身近な友人から誘われた場合には「仲間外れにされるのが怖い」などの理由で、断りづらいつと感ずるかもしれません。そんな時は、とにかくその場から立ち去りましょう。**立ち去ることも勇気です。**一人の問題を抱え込まないで、信頼できる大人や専門の窓口にご相談ください。



